

平成 30 年度 事業報告書

日本河川・流域再生ネットワーク

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)は、川づくりについて共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい川づくりの技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目指して活動しております。また、アジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の事務局として、中国や韓国など ARRN 会員や海外関係機関との連携を通じ、日本の優れた知見を海外に向けて発信し、同時に海外の素晴らしい取組みを日本国内に還元する役割を担っております。

平成 30 年度は、川づくりに関わる情報共有基盤の整備、川づくりの担い手の育成に向けた普及・啓発や協働・支援、国際的な技術交流に取り組みました。また、会員に関しては、団体会員は 1 増の 60 団体、個人会員は 23 増の 795 人となりました。

1. 平成 30 年度実施事業

【1】川づくりに関わる情報共有基盤整備

国内外の川づくりに関連する報道ニュース、行事情報、活動事例、新刊案内、行政ニュース等について、ホームページ、facebook、YouTube ページ、ニュースメール、ニュースレター等を通じて広く社会に発信し、情報循環に努めました。また、JRRN 会員や海外連携機関（ARRN 会員組織、英国河川再生センター、欧州河川再生センター）からの川づくりに関わる各種提供情報の共有を図りました。

平成 30 年度 JRRN 情報媒体の活動実績 ※()は前年度

JRRN 情報媒体	頻度	合計
ホームページ	随時	284 件 (338 件)
facebook	随時	249 件 (172 件)
ニュースメール	毎週配信	51 回 (49 回)
ニュースレター	毎月発行	12 回(12 回)

また、「小さな自然再生」研究会の幹事として「水辺の小さな自然再生ホームページ」及び「水辺の小さな自然再生 facebook」の運営管理を担い、水辺でできる小さな自然再生に関わる情報共有を推進しました。加えて、ARRN の事務局として、ARRN ホームページの運営・管理を担い、ARRN 活動成果やアジアにおける川づくりに関わる情報の普及に努めました。

【2】川づくりの担い手の育成及び協働・支援

川づくりの普及・啓発と人材育成を目的とした行事を企画・運営し、また全国の川づくり団体が取り組む活動の協働・支援を担いました。

(1) 「桜のある水辺風景 2018」写真公募と写真集制作・普及

水辺がつくる美しい景観の未来への継承を目的として、平成 30 年に撮影された「桜のある水辺写真」を一般より募集し、26 名・44 点の作品を応募頂きました。応募作品は写真集としてとりまとめホームページで公表しました。

(2) 水辺でできる「小さな自然再生」の全国普及 《河川基金助成事業》

「小さな自然再生」研究会の運営幹事として、全国の小さな自然再生の担い手が集う交流行事を共催・協力し、また全国の活動事例を集約したデータベースを制作・公開しました。

また、主催行事については開催報告書をホームページで公表し社会に還元しました。

平成 30 年度 「水辺の小さな自然再生」普及促進に関わる主な協働成果

行事名／活動名	開催／公開日	場所	参加者	主催・共催
自由集会「小さな自然再生が中小河川を救う！VI リターンズ」	平成 30 年 9 月 22 日	東京	70 名	「小さな自然再生」研究会有志メンバー
「小さな自然再生データベース」公開	平成 31 年 1 月 24 日	—	—	「小さな自然再生」研究会、JRRN
小さな自然再生サミット 2019 神戸大会	平成 31 年 1 月 26 日～ 27 日	神戸	165 名	「小さな自然再生」研究会、JRRN
講習会～iRIC で学ぶ川の流れ（初級）	平成 31 年 1 月 27 日	神戸	35 名	「小さな自然再生」研究会、JRRN

(3) 川づくり団体との協働・支援

JRRN 会員を含む川づくりに関わる諸団体に取り組む下記の公益活動に対し、企画や行事開催、広報等の支援や協働活動を担いました。

国内の主な協働実績

年月	団体名等	協働内容
通年	JRRN 会員を含む川づくり団体	行事案内や刊行物の広報等 (合計 60 件)
通年	水の巡回展ネットワーク (jawanet)	「雨展」企画・運営協力
通年	応用生態工学会	委員会活動協働
平成 30 年 6 月	隅田川流域クリーンキャンペーン実行委員会	「隅田川クリーン大作戦」企画運営協力
平成 30 年 10 月	秋田県建設部河川砂防課	「多自然川づくり現地研修会」 企画運営協力

【3】川づくりの国際的な技術交流

アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN) の事務局及び日本窓口組織として、ARRN メンバーによる技術交流を目的に毎年開催する『水辺・流域再生国際フォーラム』を運営し、日本における川づくりの経験のアジアに向けた普及に努めました。また、川づくりに関わる海外政府機関や研究機関、市民団体等の来日視察団との技術交流や研修を受け入れ、国内行政機関の協力を得ながら日本における川づくりの技術、施策、具体事例等の橋渡しを担いました。

国際的な技術交流実績

年月	団体名等	交流内容
平成 30 年 8 月 21 日	アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)	「第 13 回 ARRN 運営会議」企画運営 (東京)
平成 30 年 8 月 21 日	アジア河川・流域再生ネットワーク (ARRN)	「第 14 回水辺・流域再生国際フォーラム」企画運営 (同上)
平成 30 年 8 月 23 日	台湾・台中市政府水利局	首都圏の河川再生現場視察及び河川管理者との技術交流支援
平成 30 年 8 月 30 日～ 9 月 1 日	香港・環境 NGO (KFBG)	首都圏の河川環境に配慮した川づくり現場視察支援
平成 30 年 9 月 18 日	香港特別行政区政府渠務署	東京の高潮・洪水対策に関わる現場視察及び管理者技術交流支援
平成 30 年 10 月 17 日	中国水利水電科学研究院(IWHR)	座談会「Round-Table Meeting of Leaders of Water-Related International Organizations」(北京) 参加

2. 会員の入退会数及び現在の会員数

団体会員、個人会員の入退会数及び平成 30 年度末現在の会員数は次表の通りです。

平成 30 年度 JRRN 会員の入会・退会状況

会員区分	平成 29 年度末	入会数	退会数	現在数
団体会員	59	1	0	60
個人会員	772	26	3	795

3. その他

JRRN が国内外の川づくりの担い手と共に取組んできた河川再生に関わる国内外の情報共有と人材交流に対し、「日本及びアジアの河川再生の担い手をつなぐ協働基盤構築」として第 20 回日本水大賞「国際貢献賞」を拝受しました。また、平成 29 年度に公益財団法人河川財団より助成頂いた『水辺の「小さな自然再生」現地研修会による川づくり人材育成』事業に対し、「平成 30 年度 優秀成果表彰」を頂くことができました。

平成 30 年度 収入・支出決算書
(平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日)

(収入)

<単位:円>

項目	予算額	決算額	増減	備考
①前年度繰越金	381	381	0	
②助成金	1,000,000	1,000,000	0	河川基金助成事業
③寄付金	300,000	1,006,000	706,000	日本水大賞(国際貢献賞)賞金、建設技術研究所研究寄付金
④預金利息	30	7	△ 23	
計	1,300,411	2,006,388	705,977	

(支出)

<単位:円>

項目	予算額	決算額	増減	備考
①旅費・交通費	350,000	725,352	375,352	サミット出張費、他
②通信・運搬費	10,000	0	△ 10,000	サミット資料運搬費
③資料・印刷費	100,000	71,840	△ 28,160	サミット資料印刷費
④賃貸料	120,000	67,564	△ 52,436	サミット会場使用料
⑤委託費	340,000	373,298	33,298	サミット運営・データベース制作アルバイト人件費、サミット速記料
⑥諸謝金	50,000	0	△ 50,000	サミット講師謝金
⑦消耗品費	30,000	46,108	16,108	サミットCPD登録料、ARRN関係者お土産代
⑧来年度繰越金	300,411	722,226	421,815	
計	1,300,411	2,006,388	705,977	

※上記は助成金及び寄付金のみを計上。

その他の事業に要する諸費用は、日本河川・流域再生ネットワークの事務局を共同運営する「公益財団法人リバーフロント研究所」及び「株式会社建設技術研究所国土文化研究所」の共同研究「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」より支出しました。